

大雨による水害(洪水)

近年、全国各地で局地的大雨や記録的大雨が相次いでおり、大規模な災害に至る事態も発生しています。大雨災害発生時の行動等について、日頃から対策を行い、いざというときに備えることが重要です。

雨の降り方と強さのイメージ

やや強い雨	強い雨	激しい雨	非常に激しい雨	猛烈な雨
1時間に 10~20 mm	1時間に 20~30 mm	1時間に 30~50 mm	1時間に 50~80 mm	1時間に 80mm~
■ザーザーと降る ■地面一面に水たまりができる	■どしゃ降り ■傘をさしていてもぬれる	■バケツをひっくり返したように降る ■道路が川のようになる	■滝のように降る ■傘は全く役に立たなくなる	■息苦しくなるような圧迫感がある

水害の種類と発生の仕組み

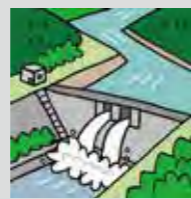
大雨がもたらす災害は、河川の氾濫だけではなく、災害が起きる前に、自分の地域にどのような水害の危険性があるのか確認しましょう。

外水氾濫(洪水)



大雨等で河川の水位が上昇し、堤防が決壊したり、河川の水が堤防を越えたりすることにより起こる氾濫を外水氾濫(洪水)といいます。

ダム下流域河川の氾濫



ダムの容量を上回る大雨が降ったとき、ダムの緊急放流を行います。ダム管理者からの緊急放流を行う情報をもとに、ダムの下流域に避難情報を発令することがあります。

内水氾濫



雨の量が下水道などの排水施設の能力を超えたときや、河川などの排水先の水位が高くなったときに雨水を排水できなくなり、浸水することを内水氾濫といいます。

道路のアンダーパスなど低い場所は水がたまりやすくなっているので注意!

POINT! 内水浸水想定区域図は仙台市ホームページで確認できます
[仙台市 内水浸水想定区域図](#) 🔍 検索

防災重点農業用ため池の決壊



防災重点農業用ため池とは、下流に住宅や公共施設があり、決壊した場合、人的被害を与えるおそれがあるため池のことです。大雨や地震により、避難情報を発令することがあります。

POINT! ため池のハザードマップは仙台市ホームページで確認できます
[仙台市 ため池ハザードマップ](#) 🔍 検索

「早期の立退き避難が必要な区域」を設定しています

河川の氾濫により家屋倒壊や住宅の2階以上が浸水するおそれがあるなど、建物内の上階に避難する垂直避難では安全の確保が難しくなる区域を「早期の立退き避難が必要な区域」に設定しています。

早期の立退き避難が必要な区域

浸水深3m以上の区域

一般的な住宅の2階床面の高さ以上に相当します。屋内に留まることにより命に危険がおよぶおそれがあります。

家屋倒壊等氾濫想定区域

大雨の際に、一般的な木造住宅を押し流すほどの氾濫流や河岸侵食が発生するおそれのある区域です。

避難情報発令時には…

警戒レベル3 **高齢者等避難** の発令を目安に、

- ①まずは洪水浸水想定区域の外へ避難
- ②上記が難しい場合は、早期の立退き避難が必要な区域外にある指定避難所などの建物の2階以上へ避難

こんなときは要注意!

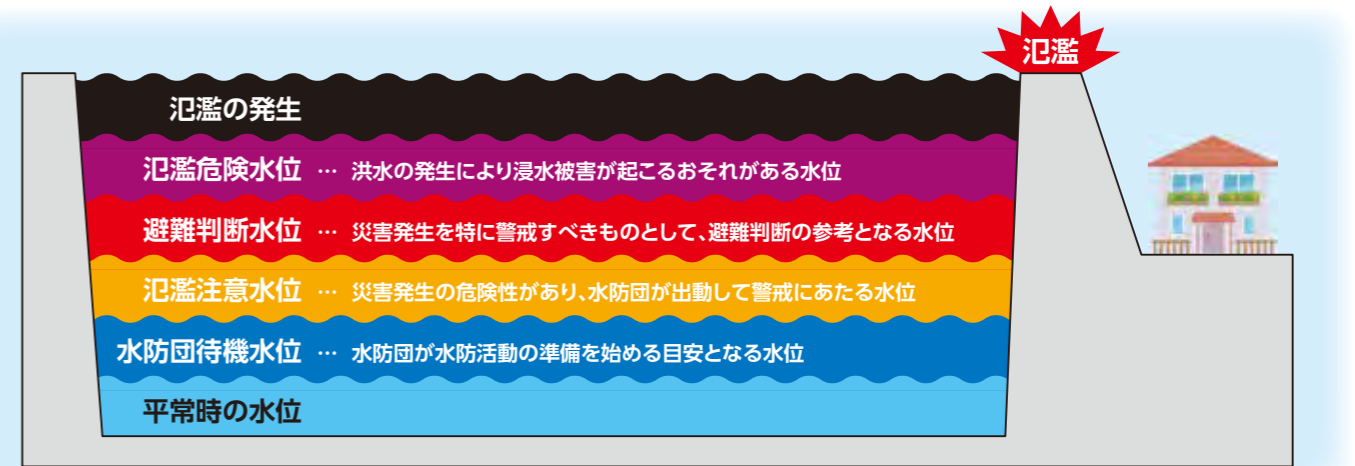
周囲の浸水が始まっているなど、外に出ることが危険な場合は、自宅の2階や近くにある頑丈な建物へ緊急的に避難し、安全を確保します。

河川の水位情報

主要河川では避難情報の基準となる水位の情報を観測し、災害発生時の危険度に応じた水位が設定されています。

POINT! 水位情報はテレビのデータ放送やこちらのWEBサイトで確認できます。

[宮城県河川流域情報システム](#) 🔍 検索



避難上の注意点

水害からの避難方法は、「浸水する深さ」や「建物の種類」などによって異なります。自身で最適な避難方法、避難先をあらかじめ決めておくことが大切です。

洪水の発生

河川の水位上昇

堤防の近くは建物ごと流されるおそれあり。急いで避難!

木造2階建て

アンダーパス

アンダーパスは水がたまっていて危険だワン!

冠水するとマンホールや用水路が見えなくなるよ。杖をつけて確認!

マンホール

移動に時間がかかる方は早めに避難を始めよう

用水路

指定避難所

できるだけ高い場所へ避難しよう

マンション・ビル

木造2階建て

みんなで協力しながら避難しよう

災害が発生してしまう前に早めの避難を心がけよう

外がすでに危険な状況! かけから離れた2階の部屋で出来る限りの安全確保を

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

土砂災害について詳しくは次ページをチェック!



土砂災害

大雨や地震により地盤がゆるむと土砂災害が発生するおそれが高まります。危険箇所や前兆現象を確認し、危険を察知したら速やかに避難しましょう。

土砂災害の種類と前兆現象

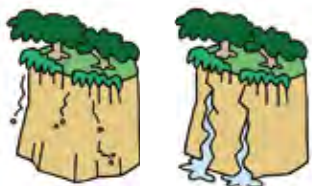
土砂災害が発生するときには、何らかの前兆現象が現れることがあります。以下のような前兆現象に気づいたら、避難情報の発令を待たずに、速やかに安全な場所に避難することが大切です。

がけ崩れ



地面にしみ込んだ雨水により、弱くなった急ながけ地や斜面が突然崩れ落ちる現象です。

！ 前兆現象 こんなときは要注意！



がけから小石が落ちてくる

斜面から水が湧き出る

土石流



山から崩れた土や石が、水と一緒にあって強い勢いで流れ下る現象です。

！ 前兆現象 こんなときは要注意！



川の水に異常な濁りが生じる

河川の水位が急に減少

地すべり



やや傾斜の緩い斜面が、広い範囲にわたってかたまりのまま動く現象です。

！ 前兆現象 こんなときは要注意！



山鳴りが聞こえる

がけにひび割れが発生している

警戒区域の指定

※「土砂災害警戒区域等における土砂災害防止対策の推進に関する法律」

土砂災害から市民の生命を守るため、「土砂災害防止法※」に基づき、警戒区域が指定されています。

土砂災害警戒区域 (イエローゾーン)

土砂災害が発生した場合、生命または身体に危害が生じるおそれがある区域

土砂災害特別警戒区域 (レッドゾーン)

土砂災害が発生した場合、建築物に損壊が生じ、生命または身体に著しい危害が生じるおそれがある区域

土砂災害警戒情報に注意!

土砂災害警戒情報は、大雨による土砂災害発生の危険度が高まったときに、仙台市が避難情報を発令する際の判断や住民の自主避難の参考となるよう、気象庁と宮城県が共同で発表する防災情報です。

気象庁や宮城県のホームページで確認できるほか、テレビやラジオの気象情報でも確認できます。

気象庁ホームページ

宮城県ホームページ



土砂災害からの避難方法

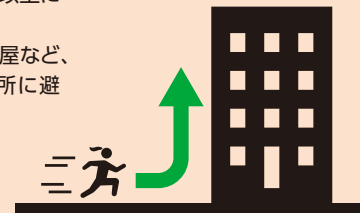
原則として区域外へ避難

- 避難情報により示される指定避難所等や、土砂災害警戒区域等の外の安全な場所へ避難しましょう。
- がけの上に自宅がある場合などは、倒壊のおそれがあるため、区域外へ急いで避難しましょう。



区域外への避難が難しい場合は

- 近くの頑丈な建物の2階以上に緊急避難しましょう。
- がけから離れた2階の部屋など、家の中でより安全な場所に避難しましょう。





避難情報

「避難」とは「難」を「避」けることです。警戒レベルや仙台市から発令される避難情報に十分注意し、適切な避難行動を心がけましょう。

警戒レベルと避難情報

※市が発令する避難情報は、洪水浸水想定区域や、土砂災害のおそれのある区域等を含む町丁目単位で発令します。
※状況が急変することもあるため、避難情報等は必ずしも警戒レベル1から5の順番に発令されるとは限りません。

危険度 ↓ 高	気象情報等 (気象庁が発表)	警戒 レベル	避難情報等	取るべき行動
	警戒レベル2相当情報 大雨・洪水注意報 氾濫注意情報	レベル 1	早期注意情報 (気象庁が発表) 今後気象状況悪化のおそれ	今後の気象情報を確認 最新の防災気象情報等に留意するなど、災害への心構えを高めましょう。
	警戒レベル3相当情報 大雨警報 洪水警報 氾濫警戒情報	レベル 2	大雨・洪水注意報 (気象庁が発表) 気象状況悪化	自分の避難行動を確認 ハザードマップ等により、災害が想定される区域や避難先、避難経路を確認しましょう。
	警戒レベル4相当情報 土砂災害警戒情報 氾濫危険情報	レベル 3	高齢者等避難 (仙台市が発令) 災害のおそれあり	危険な場所から高齢者等は避難 高齢者等以外の方も、普段の行動を見合わせ始めたり、河川の水位情報等を用いて避難の準備をしたり、自主的に避難を行うなどしてください。 ※高齢者等…避難に時間を要する人(高齢の方、障害のある方、妊産婦・乳幼児等)とその支援者
	警戒レベル5相当情報 大雨特別警報 氾濫発生情報	レベル 4	避難指示 (仙台市が発令) 災害のおそれ高い	危険な場所から全員避難 過去の重大な災害の発生時に匹敵する状況です。この段階までに避難を完了しておきましょう。
			警戒レベル4までに必ず避難!	
		レベル 5	緊急安全確保 (仙台市が発令) 災害発生または切迫	命の危険 直ちに安全確保! 何らかの災害がすでに発生している可能性が極めて高い状況となっています。命の危険が迫っているため、直ちに身の安全を確保してください。

避難行動判定フロー (洪水・土砂災害時)





地震

地震はいつどこで起きるかわからない災害です。普段意識していない行動をとっさの判断で行うことは難しいため、平常時から地震発生時の行動を確認しておきましょう。

地震が起きたら

まずは身の安全を確保



テーブルや机の下に身を隠し、頭部を保護しましょう。

揺れがおさまったら火の始末



身を守ることを優先し、揺れがおさまってから火を消しましょう。

窓や戸を開けて出口を確保



地震で建物が歪み、扉が開かなくなることがあります。避難路を確保するために出口は必ず開けておきましょう。

通電火災に注意

通電火災を防ぐため、停電中は電気機器の電源を切り、電源プラグを抜いておくことや、避難する際は、ブレーカーを落とすなどの対策をしましょう。



倒れやすいものには近づかない

避難途中、瓦やガラスなどの落下物やブロック塀・自動販売機など倒れやすいものには近づかないよう注意しましょう。



避難時はみんなで協力



お年寄りや身体の不自由な人、ケガ人などに声をかけ、みんなで助け合いながら避難しましょう。

家の中の安全対策

家具の転倒・落下防止



突っ張り棒やL字型金具などの転倒防止グッズを利用して家具の転倒・落下を防ぎます。

窓ガラスの飛散防止



窓や食器棚などに飛散防止フィルムを貼ります。

避難路の確保



避難路を確保するため、通路や出入口には荷物や家具を置かないようにします。

北海道・三陸沖後発地震注意情報について

○どういう情報なの?いつ発信されるの?

三陸沖や北海道の太平洋側の沖合では、強い地震が発生したあとに、さらに大きな地震(後発地震)が発生した事例がまれに確認されています。

これを踏まえ、三陸沖や北海道の太平洋沖合の区域でマグニチュード7.0以上の地震が発生した場合に、後発地震への注意を促すために発信される情報です。

※情報が発信されたとしても、必ずしも巨大な地震が発生するとは限りません。

○情報が発信されたらどう行動すればいいの?

情報発信後1週間程度は、普段通りの生活や社会活動を継続した上で、いつもより地震の発生に注意し、非常持ち出し品の確認や家の中の安全対策などの備えを徹底しましょう。なお、津波避難エリア内では、地震の揺れを感じたり、津波警報等が発表されたりした場合には、速やかに避難できるよう準備が必要です。

すぐに避難できるよう、枕元に非常持ち出し品を準備しておくのも○



仙台市 北海道・三陸沖後発地震注意情報 🔍 検索



津波

地震が発生した場合、海沿いの地域は、津波に襲われる可能性があります。テレビ・ラジオ・防災行政用無線などの情報に注意し、迅速に行動しましょう。

津波からの避難行動

仙台市では、津波が発生した場合に避難を要する区域として、「津波避難エリア I・II」を設定しており、津波発生のおそれがある場合、このエリアに対して避難指示を発令します(右表)。該当する地域にいる場合は、直ちに避難を行いましょう。

分類	予想される津波の高さ	避難行動	
大津波警報	3m超(巨大)	津波避難エリアI+II より内陸側へ直ちに避難	※徒歩で津波避難エリアの外への避難が困難な場合は、近くの避難施設・場所へ直ちに避難
津波警報	1~3m以下(高い)	津波避難エリアI より内陸側へ直ちに避難	
津波注意報	1m以下	海岸線や河口から直ちに離れ、 海岸堤防より内陸側へ避難	

「津波からの避難の手引き」も併せてご確認ください

津波からの速やかな避難のために必要な事項や、津波からの避難が必要な区域(津波避難エリア)、避難施設等を記載したリーフレットです。宮城県が令和4年5月に公表した最大クラスの津波浸水想定を基本に、津波の河川遡上を考慮して作成しています。



津波からの避難の手引きは仙台市ホームページで確認できます。

津波からの避難の手引き 🔍 検索



YouTube 動画で「津波からの避難の手引き」の見方を解説しています

仙台市公式YouTubeチャンネル「せんだいTube」に解説動画を掲載中です。手引きと一緒にご覧頂き、津波からの避難行動や備えについてご確認ください。



津波からの主な避難のポイント

揺れを感じたらすぐに避難

津波警報、注意報が出ていなくても、強い揺れを感じたら避難しましょう。また、ラジオ、テレビ、防災行政用無線などを通じて情報を入手しましょう。



徒歩で避難する

自動車を使うと、事故や渋滞などに巻きこまれる危険があるため、原則徒歩で避難しましょう。



エリア外への避難が難しい場合は

津波避難エリア外への避難が原則ですが、余裕を持ってエリア外に出られない場合は、近くの津波避難施設・場所へ徒歩で避難しましょう。



日頃から避難先や避難経路を確認しておきましょう

災害発生時にとっさに行動できるよう、日頃から避難する場所を決めておき、避難経路も事前に確認しておきましょう。避難訓練への参加も重要です。



津波避難施設・津波避難場所

津波から緊急的に避難するための施設や場所です。津波避難タワー、津波避難ビル(消防団施設が併設)、協定に基づく民間施設、一部市有施設のほか、沿岸部に整備した避難の丘、仙台東部道路への避難階段を指定しています。



「津波からの避難の手引き」で避難施設等の場所を確認しておこう!





その他の災害・危機

原子力災害

「原子力災害」とは、原子力発電所等において放射性物質や放射線が漏れてしまい、国民の生命、身体または財産に被害が生じることをいいます。放射性物質は五感では感じられず、原子力発電所で災害がおこっても、自分ですぐに避難行動を判断するのは難しいものです。だからこそ、**国、県、仙台市**からテレビやラジオ、メール等で発信される正確な情報を入手しましょう。

噂やデマに惑わされず、国や県、仙台市の情報に従って、落ち着いて行動することが大切だよ



万が一、原子力災害が発生した場合は

仙台市から、「屋内退避」や「一時移転」をそれぞれ「準備」→「指示」の2段階で発令します。

屋内退避

準備



できるだけ外出を避け、屋内に留まる準備をします。テレビやラジオ、メール等で発信される今後の情報に注意します。

指示



放射性物質の室内への侵入を防ぐため、窓や戸の戸締り、換気扇を停止したうえで屋内で安全を確保します。

一時移転

準備



一時的な移転に備え、非常持ち出し品を準備します。(参考: 31ページの「非常持ち出し品チェックリスト」)

指示



指示内容に基づき一時移転します。戸締りを徹底し、周囲にも声をかけて、協力しながら行動します。

放射能に関する情報

仙台市ではモニタリングポスト(空間放射線量の計測を行うために設置された無人測定点)を各区役所、総合支所の7箇所に設置しています。リアルタイムの測定結果は、仙台市ホームページで確認できます。

他都市からの避難者受け入れ

女川原子力発電所で原子力災害が発生し、仙台市に被害がないまたは限定的な場合には、石巻市と東松島市から避難者を受け入れることがあります。受け入れの施設として市立学校等の指定避難所は使用せず、大規模市有施設などを使用します。

弾道ミサイル落下時の行動について



POINT!! 武力攻撃やテロから身を守るために事前に確認しておきましょう。

国民保護ポータルサイト 検索

Jアラートを通して緊急情報が瞬時に伝達されます



防災行政用無線



ラジオ



テレビ



緊急速報メール

(緊急情報の例文)

ミサイル発射。
ミサイル発射。
○○からミサイルが発射されたものとみられます。建物の中、または地下に避難してください。

メッセージが聞こえたら、落ち着いて直ちに避難行動を!

屋外にいる場合



近くの頑丈な建物の中か地下に避難します。

建物がない場合



物陰に身を隠すか、地面に伏せて頭部を守ります。

屋内にいる場合



窓から離れるか、窓のない部屋に移動します。



ハザードマップの見方

地図の見方



- …土砂災害警戒区域(イエローゾーン)
- …土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)

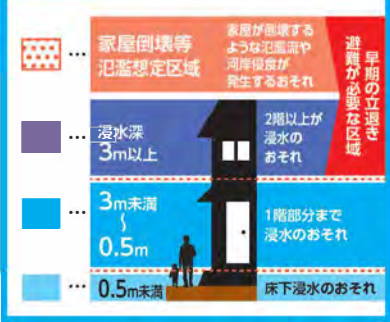
ハザードマップの想定雨量について

本紙に掲載している洪水浸水想定区域は、想定し得る最大規模の降雨(1000年に1度程度の確率で起こる大雨)に伴う洪水により各河川が氾濫した場合の浸水状況を、シミュレーションにより予測したものです。なお、この図面に表示されていない区域においても浸水が発生する場合や、想定される水深が実際の浸水深と異なる場合があります。

	想定最大規模雨	平成27年9月 関東・東北豪雨 ※流域平均2日雨量	令和元年 東日本台風 ※流域平均2日雨量
名取川(2日総雨量)	607mm	255.6mm	297.1mm
芥川(2日総雨量)	607mm		
旧芥川(1日総雨量)	747mm		
広瀬川(2日総雨量)	679mm	266.6mm ※流域平均2日雨量	164.9mm ※流域平均2日雨量
七北田川(1日総雨量)	549.5mm	286.7mm ※流域平均24時間雨量	277.1mm ※流域平均24時間雨量
梅田川(1日総雨量)	747mm		
砂押川(1日総雨量)	723mm		
増田川(1日総雨量)	747mm		

※流域平均雨量は各河川管理者公表資料より出展

浸水想定区域



凡例

- 指定避難所
- 大雨時に特殊な開設条件のある指定避難所
- 特殊な開設条件
 - 2F↑ 大雨時は2階(3階)以上への避難が必要な指定避難所
 - 3F↑
 - 初動× 大雨時初動で開設しない指定避難所
 - 大雨× 大雨時開設しない指定避難所(土砂災害警戒区域内などのため)
- アンダーパス
(水が溜まりやすい場所)

POINT!

※本ハザードマップでは、縮尺等の関係から一部災害想定区域が判別しづらい部分などがあります。詳細については、せんだいぐらしのマップをご確認ください。

※本ハザードマップでは、視認性の確保のため、水害のおそれのある区域を青系色で表示しています。

せんだいぐらしのマップ

検索

測量法に基づく国土地理院長承認(使用) R4JHs 53-GISMAP55850号
地図提供: 北海道地図株式会社

指定避難所とは

指定避難所とは、災害の危険から命を守るための緊急的な避難施設であるとともに、被災した方々が一定期間滞在して避難生活をする施設です。避難するための広場と避難者を受け入れる建物を併せ持つ施設で、市立の小・中・高等学校などが指定されています。以下に示す基準に従って避難所は原則開設されますが、避難情報が発令された場合でも、開設する避難所が変更される場合があるため、市のホームページなどで最新の情報を確認ください。

補完的な避難施設について

指定避難所での生活が困難な方などを受け入れるための補完的な施設として、市民センター等の補助避難所や社会福祉施設等の福祉避難所などが整備されています。これらの補完的な避難施設は、避難所開設のタイミングや活用方法が指定避難所とは別に定められています。指定避難所以外の避難施設を避難先として検討する際には、あらかじめ対象の施設やお住まいの区の区役所などへご確認ください。

避難所はどんなときに開設される?

避してください。

災害の種類	開設の基準	開設される避難所
地震	市内で震度6弱以上の地震が発生した場合	建物の安全が確認されたすべての指定避難所
津波	市内に津波注意報・津波警報・大津波警報が発表された場合	津波避難エリア内とその周辺の指定避難所等
洪水	河川の水位が上昇し、氾濫のおそれがあり、避難情報を発令する場合	洪水の避難情報が発令された区の指定避難所
土砂災害	土砂災害発生危険性が高まること予測された場合	土砂災害の避難情報が発令された区の指定避難所

大雨時初動で開設しない指定避難所

初動× 付近に洪水浸水想定区域や土砂災害警戒区域がない等の指定避難所で、地域の意向に応じて大雨時に初動で開設しないこととしています。

大雨時に開設しない指定避難所

大雨× 以下の指定避難所は大雨時に開設しません。
●洪水浸水想定区域内かつ平屋建て
●校舎及び体育館が土砂災害警戒区域内にある

大雨時に2階以上へ避難が必要な指定避難所

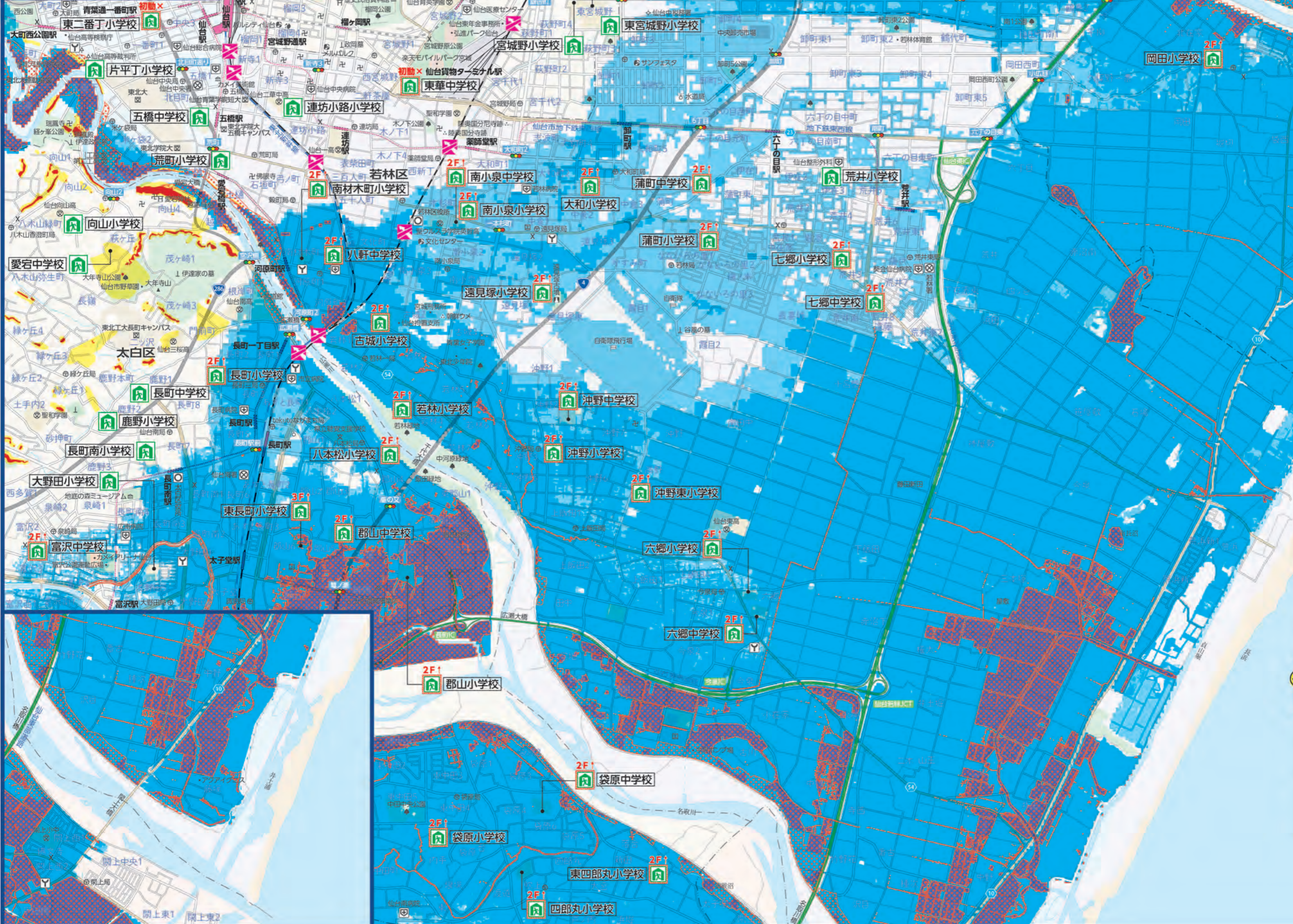
2F↑ 洪水浸水想定区域内にあるため、2階(または3階)以上への避難が必要です。

※上記に関わらず、災害や避難者の状況を踏まえて災害対策本部の判断等により避難所を開設することがあります。

若林区

縮尺 1/32,000

500m 歩くのにかかる時間 約7分
(※成人の平地における歩行速度目安)



- ### 凡例
- 指定避難所
 - 大雨時に特殊な開設条件のある指定避難所
 - 特殊な開設条件
 - 2F↑** 大雨時は2階(3階)以上への避難が必要な指定避難所
 - 3F↑** 大雨時は3階以上への避難が必要な指定避難所
 - 初動×** 大雨時初動で開設しない指定避難所
 - 大雨×** 大雨時開設しない指定避難所(土砂災害警戒区域内などのため)
 - アンダーパス(水が溜まりやすい場所)

- ### 土砂災害警戒区域
- ... 土砂災害警戒区域(イエローゾーン)
 - ... 土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)



POINT! 詳しい内容は「**せんだい**」
 内容は「**くらしのマップ**」でも見られます

災害への事前の備えなどに活用していただくことを
 目的として、スマートフォンやパソコン上で、防災に
 役立つ様々な情報を1つの地図上で自由に重ねて表
 示することができる電子地図の公開サイトです。

こちらの二次元コードから
 本ページの電子地図が見られます

洪水
土砂災害
避難情報
地震・津波
その他の災害
ハザードマップ
災害への備え